

森林を測り、その姿を知り、考える



1年生の授業で、ヒノキ人工林を調査するという実習を行いました。

適切な森林管理、例えば間伐などを実施する場合、まずはその森林の姿を正しく認識することが必要です。初めて森林を調査した学生は、この実習で、なぜ森林を調査するのか、どういった方法で森林の調査を行うのか、調査結果をどのようにとりまとめるのか、そこから何がわかるのか、その森林ではどんな作業が適切なのか、といったことを学んだり考えたりしてくれたと思います。

新年度から始まる「林業再生講座」では、これまで以上に森林管理を強く意識したカリキュラムを考えています。そこでは、森林の姿をきちんととらえ - それを読み込み - そこから考えるという技術の習得も、森林管理の基本として重要視しています。

(林業再生講座 准教授 横井秀一)



実践真っ最中! 自力建設プロジェクト



木造建築スタジオでは学生自身が設計から施工までを行う「自力建設」の上棟を無事に終えて、屋根工事、デッキ工事へと作業が進んでいます。また、建物だけの工事ではなくネイチャートレイルと呼ばれるみちづくりも行いました。この作業ではスタジオの学生だけではなく、森と木のエンジニア科の学生達も参加しました。この時ばかりは彼らが主役。普段、学んでいる建築の知識だけではなく、他分野で学ぶ学生の参加からも学ぶことも多くあります。学生同士、互いに学び合える事もこのプロジェクトの魅力のひとつ。

夏から着工してから半年余りが過ぎ、すっかり周りの景色も秋から冬へと変わりました。寒いといっても作業が止まることはありません。5月の竣工に向けてエンジン全開で頑張ります!

(1年 黒岩靖志)

林業架線実習



傾斜が急な現場では、道から離れた場所に立っている木を搬出するため、ワイヤロープと集材機を使って木材の搬出を行います。これを架線集材と呼びます。林業架線実習では、架線の張り方、ロープの加工方法、道具の使い方、仕事の段取りを実際に体験しながら勉強していきます。今回はアカデミーの演習林で約100mの架線を設置しました。ワイヤロープを引っ張る集材機を設置したり、ロープが擦れて木が傷まないよう当て木を作ったり、様々な仕事が必要になるため、学生みんなが協力して、段取りよく仕事を進めることが大事です。写真では、一生懸命ワイヤロープを金属製の針を使って加工しています。

(助教 杉本和也)



森と木のクリエイター科



林業再生



山村づくり



木造建築



ものづくり

森と木のエンジニア科



(森林・林業・木材利用)

岐阜県立森林文化アカデミーは、森林を多面的に活用し、新たな森林文化の創造に寄与できる人材を育成する2年制の専修学校です。

大卒または実務経験者が対象の森と木のクリエイター科では「林業再生」「山村づくり」「木造建築」「ものづくり」のいずれかの講座に所属して専門的に学び、高卒以上の人を対象とする森と木のエンジニア科では、全員が「森林・林業・木材利用」を学びます。

肌で感じる、ものづくり2年間の成果



今、2年生はものづくりを学んできたまとめの時期です。1月、ある保育園で木育講座を企画運営した2年生の課題研究活動がありました。ほら、参加者の皆さんいい顔でしょう。夏から計画を立て、ほかの講座で力を養い、保育園に何度も足を運び、子供たちや園のスタッフの信頼を得ながら、講座運営の力をつけてきた結果です。

学生デザインの子供椅子はシンプルな形です。でも、2年間の木工の技術の成果が詰まっていて、パズルのようにいろんな条件を組み上げるような作業で頭を悩ませていました。子供たちが年齢に合わせて楽しめる作業内容を盛り込み、木を組む楽しさと工夫があり、椅子が並ぶと8種類の木の色が出ます。その中に、材料を選ぶところから自分で形を作り上げるまでの木工技術が生かされています。

ものづくり研究会の課題研究では、社会とのつながりを重視し、進路や夢につながるような作品制作や活動に取り組む学生がほとんどです。自分たちの作るモノが社会の中でどうつながるか、どのような力を発揮できるかを実感できる成果となったと思います。この経験が卒業後もつながっていくことに大きく期待します。



(ものづくり講座 講師・山口博史)



山村で見つけた宝物



山村地域の暮らしを夢見る学生にとって、イターン移住した人を訪れ、現場でお話を聞くことは貴重な体験になります。先日、「自分が変わればみんなも変わる」を信念に、岐阜県中津川市加子母村で持続可能な暮らしを実践する森本さん一家を訪れました。東京で経営コンサルタントをしていた森本さんは、「このままでは幸せな生活はできない」と、八ヶ岳での仙人修行!?を経て、現在の加子母村に移住したそうです。

到着するやいなや、皆で昼食の玄米餅づくりがスタート。臼や杵、戦後の燃料不足の時代に発明された「愛農かまど」など昔の生活道具を使い玄米餅をつきました。持続可能な知恵や技術であふれていた昔の暮らしに感心したと同時に、それらがなんとか残されている山村地域の可能性と底力を実感しました。

お次はついた餅を丸めながら、移住生活の経験談に皆で耳を傾けました。一緒に作業をしながら聞く話は、一語一句が自然と心に染み込んでいきます。昔の暮らしはこうした時間が沢山あったのでしょうか。これが本当の幸せな暮らしなのかもしれません。教科書ではなく体験的に学びを得て成長したアカデミー生たち、卒業後にどこでどんな風に目を輝かせて暮らしているか、今から楽しみで仕方ありません。

(山村づくり講座 講師 萩原裕作)

森林文化アカデミーQ&A

「学生の住宅事情は？」

全国から入学者が集まる森林文化アカデミーでは、大半が美濃市や周辺にアパートや住宅を借りて住んでいます。アパートは一部屋4~5万円くらい。美濃市には物件が少なく、関市に借りる人も多いようです。中には自転車好きで、25キロ離れた岐阜市のアパートから2年間自転車通学した学生もいました！

クリエイター科は、既婚者で家族とともに来る学生も多いので、一軒家を借りる人もいます。仲良くなった学生同士で一軒家をシェアする人たちもいます。古い物件なら、アパート一部屋と同じくらいの家賃で借りられます。エンジニア科は岐阜県出身者が多くいますが、実家から1時間ほどかけてバイクや車で通ったり、アパートで初めての一人暮らしを楽しんだり様々です。

スムーズに借家を見つけるコツは、卒業する学生から引き継ぐこと。オープンキャンパスや学園祭で在校生と話す機会があるので、住宅のことを相談するといいでしょう。また「NPO法人美濃のすまいづくり」が、美濃に新しく住む人へのアドバイスや空き家のあっせんを行っています。(tel/fax0575-33-076 0 npomino@ray.ocn.ne.jp)

まだ受験可能! 3次入試を行います

出願期間は、2011年 2月16日から3月8日までです。(消印有効)

森と木のクリエイター科 試験日 2011年 3月13日(日)
合格発表 2011年 3月15日(火)

森と木のエンジニア科の入試はありません。

お問い合わせ

学校見学は随時受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

501-3714 岐阜県美濃 市曾代88 岐阜県立森林文化アカデミー
tel 0575-35-2525 fax 0575-35-2529
email info@forest.ac.jp